

本間美術館を中核とした 酒田湊町文化観光拠点計画

目 次

1. 実施体制	3
2. 事務の実施体制	4
3. 基本的な方針	5
4. 目標	11
5. 目標の達成状況の評価	17
6. 文化資源保存活用施設	18
7. 文化観光拠点施設機能強化事業	24
8. 計画期間	32

本間美術館を中核とした酒田湊町文化観光拠点計画

1. 実施体制

文化資源保存 活用施設	名称	公益財団法人本間美術館	所在地	山形県酒田市御成町7番7号
申請者 文化資源保存活用 施設の設置者	名称	公益財団法人本間美術館	所在地	山形県酒田市御成町7番7号
	代表者	代表理事 本間 謙三		
	地方公共 団体内部 の役割			
共同申請者① 文化観光推進 事業者	名称	一般財団法人酒田DMO	所在地	山形県酒田市中町一丁目4番10号
	代表者	代表理事 荒井 朋之		
	役割	施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者		
共同申請者② 文化観光推進 事業者	名称	一般社団法人 酒田観光物産協会	所在地	山形県酒田市山居町一丁目1番20号
	代表者	会長 西村 修		
	役割	施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者		
共同申請者③ 文化観光推進 事業者	名称	The Hidden Japan合同会社	所在地	山形県酒田市新橋二丁目26番地の20
	代表者	代表 山科 沙織		
	役割	施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者		

2. 事務の実施体制

事務局・予算管理：本間美術館

計画策定・運用管理（PDCA）：本間美術館、酒田DMO

The Hidden Japan 合同会社：多言語化支援、イベント企画、ツアー造成等

○各事業の進捗管理、情報共有を行うため、各機関担当者による連絡会議を定期的（5月・8月・11月・2月の最終週）に開催する。ただし、イベントの実施などの際は定期会議以外にも随時開催する。

《自治体担当部署》

文化振興：酒田市企画部文化政策課

観光振興：酒田市地域創生部交流観光課

《自治体連携部署》

交通政策：酒田市企画部都市デザイン課

産業振興：酒田市地域創生部商工港湾課

3. 基本的な方針

3-1. 現状分析

3-1-1. 主要な文化資源

●酒田と本間家の関係

・酒田湊は、最上川の河口に位置し、古くから最上川舟運によって内陸から運ばれる米の集積地であり、紅花などの特産物と一緒に京都、大坂、江戸へと運ばれる積出港となった。酒田が西廻り航路の中継点となり、北前船交易で大いに賑わった要因として、船が悪天候を避けるための風待ち港、「飛島」があったことなど、地理的条件に恵まれたことも大きい。最上川舟運による内陸地との交易に加え、北前船の往来によって上方船の出入りが急増し、天和三（1683）年には、川船も含め約三千隻の船が入港したと伝えられている。船による交易で全国とつながった酒田は、華やかで自由闊達な湊町文化が形成された。

・酒田市では、豪商と雅な文化が融合した歴史や地域資源を活用した「酒田市中長期観光戦略」を平成 28 年 3 月に策定し、「KOEKI（交易と公益）のまち・酒田」「湊町文化とおもてなしのまち・酒田」をメインテーマに、「広めよう！酒田自慢」「増やそう！酒田ファン」を観光戦略スローガンに掲げ、令和 2 年度までに取り組むべき具体的施策等を掲げた。

・その中でも、酒田の繁栄の立役者となった本間家は、酒田港を中心にした商業で巨額の財産を築き、日本一の地主として知られ、「本間様には及びもせぬが、せめてなりたや殿様に」が全国に伝播するまでになった。特に 3 代光丘は、商人として活躍しながら「公益」事業にも尽力し、地域社会にも大きな功績を遺した。「本間家日本邸」は光丘が幕府の巡見使宿舎として旗本二千石の格式を持つ長屋門構えの武家屋敷を建造し、庄内藩主酒井家に献上した建築であり、現在は一般公開されている。

（別紙参考資料 P1・P2 参照）

●本間美術館の主な文化資源

・本間美術館が所蔵する主要な文化資源は以下のとおり。（別紙参考資料 P10～P12 参照）

（国指定文化財）蒔絵二重短刀箱 内箱桐繫 外箱歌所菱（工芸品）、市河文書 木曾義仲下文（古文書）、消息 十月八日 藤原定家筆（古文書）、伊勢物語 塗籠本 伝民部卿局筆（書跡）

（県指定文化財）玉志亭唱和懐紙 松尾芭蕉筆（書跡）、青磁牡丹唐草文大花瓶（工芸品）、絹地切 小野道風筆（書跡）、御自筆御歌集断簡 広沢切 伏見天皇筆（書跡）、など

（市指定文化財）布袋図 香川黄中賛 伊藤若冲筆（絵画）、太刀 銘月山作（工芸品）、など

※総件数 659 件（書跡 173 件、絵画 108 件、版画 33 件、工芸 321 件、彫刻 4 件、郷土資料 20 件）、約 3 千点の美術品、資料等を所蔵しており、そのうち、国指定文化財が 4 件（工芸品 1 件、古文書 2 件、書跡 1 件）、県指定文化財が 22 件（絵画 9 件、工芸品 7 件、書跡 6 件）、市指定文化財が 61 件（絵画 24 件、工芸品 7 件、書跡 13 件、典籍 4 件、古文書 10 件、歴史資料 3 件）

・本間美術館敷地内には、国指定名勝の本間氏別邸庭園「鶴舞園」がある。当園は、1813 年に本間家四代・光道が藩主酒井候のために築造したもので、北前船が運んだ諸国の名石を配し、鳥海山を借景とした四季の風情豊かな池泉回遊式庭園である。鶴が舞い降りたことから酒井候が「鶴舞園」と名付け、地元の方のみならず、国内外問わず多くの観光客に現在でも喜ばれている（別紙参考資料 P13 参照）。また、庭園には、「酒田の迎賓館」としても使用されてきた本間家の別邸「清遠閣」の京風純和風建築があり、建物内の喫茶室から庭園を眺めることができる。

3-1-2. 来訪客の動向

・酒田市全体の観光客数

H29 2,937,800人（うち外国人10,401人）

H30 2,810,355人（ ” 12,985人）

R1 2,825,827人（ ” 12,586人）

・酒田市の訪日旅客（国、地域別）※令和元年度観光案内所集計

1位.台湾（3,441人） 2位.香港（525人） 3位.韓国（260人） 4位.タイ（228人） 5位.アメリカ（101人）

酒田市全体での観光客数は年度ごとに増減のばらつきはあるものの、外国クルーズ船の寄港により、外国人観光客の人数は平成29年度から急増している。しかし、外国クルーズ船から降り、寄港地ツアーを利用する観光客の多くは、鶴岡市の加茂水族館、最上川舟下りなど、酒田市以外の周辺観光地に飛散し、市内観光する観光客は決して多くはない。原因として、有名観光地のネームバリューに市内観光地が見劣りすることや二次交通の脆弱さが挙げられる。山形県内の有名観光地へ向かうシャトルバスは、ある程度の旅行者数が確保できるため、大型バスで大量輸送されるが、市内観光に向かう路線バスやタクシーは需要に応えきれないほどの運行頻度、台数が確保できず、需要を取りこぼしている状況にある。

平成30年度から行っている酒田市観光動向調査によると、北前船の往時をしのぶ山居倉庫が酒田市を訪れる観光客のハブ機能を果たしており、年間約81万人が訪れている。観光客はここから市内の各観光地を回遊しており、本間美術館も徒歩20分ほどの距離である。また、JR酒田駅前には2021年に高速バスなども発着するバスベイが完成予定で、酒田駅周辺は旅客の玄関口として賑わいを取り戻す見込みである。

酒田市の宿泊客は観光客の約2割（平成28年）で、各スポットも短時間の立ち寄りが多いため、平均滞在時間は3時間47分（平成28年）という調査結果もあった。

本間美術館はJR酒田駅から徒歩5分と近く、本間美術館と同様に北前船がもたらした栄華にゆかりのある山居倉庫も徒歩圏内でありながら、来館者は年間3万人程度である。北前船で栄えた本間家の至宝や名園を有する美術館に、市内の両拠点からの誘客を促進し、来館者がじっくり鑑賞を楽しめるよう機能強化を図り、湊町文化、歴史を知る基点とすることで来館者増と、旅客の市内滞在時間増および消費促進が期待できる。

・本間美術館への来訪客数

H29 26,200人（うち外国人687人）

H30 28,860人（ ” 943人）

R1 31,183人（ ” 1,577人）

訪日旅行者については、酒田市、本間美術館ともに近年来訪数が増加傾向にある（コロナ禍による影響以前）。これは酒田港への外国クルーズ船の寄港回数に比例している。本間美術館はJR酒田駅に近いことから個人旅行者の立ち寄りもあるが、来訪者は年間2,000人未満である。訪日外国人旅行者属性別では、台湾、香港、韓国、タイ、アメリカの順の来訪割合となっており、台湾が全体の約半数を占め、国内旅行者属性別では、県内が約6割、県外が約4割となっている。本間美術館はミシュラン・グリーンガイド・ジャポンでも紹介（鶴舞園：二つ星、清遠閣：一つ星）されており、アジア圏の旅客のほか、日本文化に関心の高い欧米人もターゲットとなり得る。

3-1-3. 他の文化資源保存活用施設との比較

山形県内における登録博物館・博物館相当施設・公開承認施設は、全 19 か所あり、そのうち酒田市内にある該当施設は、本間美術館のみである。酒田市内には、その他の代表的な文化施設として「酒田市美術館」と「土門拳記念館」がある。

「酒田市美術館」

- ・ 文化賞受賞作家の森田茂の洋画や酒田市出身の彫刻家の高橋剛の作品を常設展示
- ・ 4 半期ごとに有名アーティストの企画展示を実施
- ・ 市民ギャラリースペースを併設
- ・ 主に近隣市町より来訪
- ・ ファミリー層の来訪が多い

「土門拳記念館」

- ・ 個人の写真専門展示館として日本で最初に開館
- ・ 土門拳の作品 7 万点をすべて所蔵
- ・ 記念館の設計は谷口吉生
- ・ ミシュラン・グリーン・ガイド・ジャポンに掲載。二つ星を得ている（2009 年）
- ・ 来訪者は主に地域外からの観光客で、シニア層が多い

酒田市美術館、土門拳記念館は、酒田市郊外（JR 酒田駅から 5km 以上）にあるが、本間美術館は、酒田市中心街付近（JR 酒田駅から 400m、中心市街地までは約 2km）にあるため、第一の回遊先として分かりやすい立地と近距離にある訪問のしやすさがある。

土門拳記念館は、写真家土門拳のネームバリューを活かし、各メディアを通じた PR をしている。また、酒田市美術館は、有名アーティストの企画展示をテレビコマーシャル等で PR する等、魅力発信に努めているが、本間美術館はホームページでの情報発信が主なツールであり、検索性も低い状況である。

また、上記 2 施設は洋風建築で、特に土門拳記念館はニューヨーク近代美術館の設計をした著名な建築家の谷口吉生が手掛けており、展示品と併せて建築物も呼び水となっている。

対して本間美術館は、収集品を展示する美術館としてのみならず、京風の純和風建築であり、酒田の迎賓館としても使用されてきた「清遠閣」、北前船が運んできた佐渡の赤玉石や伊予の青石などを配し、鳥海山を借景とする池泉回遊式庭園である「鶴舞園」による庭園美術館としての性質も持っている。このように、美術館と日本庭園が同じ敷地内にあることで、来館者の嗜好性の広さに応え得る文化資源保存活用施設となっている。

酒田市美術館、土門拳記念館、本間美術館は、収蔵品、展示品が異なるため、施設間で連携することで、多様な観光ニーズにも応えることができるポテンシャルを持っていると考えられる。

（別紙参考資料 P4 参照）

3-2. 課題

酒田市は江戸時代、北前船交易の重要な寄港地として繁栄したが、その後の流通の変革、モータリゼーション化の流れから「港町・酒田」の賑わいは失われつつある。しかしながら酒田市には、当時の繁栄を偲ばせる港町文化、北前船により持ち込まれ発展した京の文化や食文化等が今なお色濃く残っている。また、酒田市は「おしん」や「おくりびと」等の魅力的な映画のロケ地や、山居倉庫、山王くらぶ、本間家旧本邸などを中心的な観光資源として多くの観光客を迎え入れてきた。しかしながら、昨今の外国クルーズ船寄港時の外国人旅行者への対応や、多様化する関心に必ずしも的確に応えきれていない。観光スポットに立ち寄り、見学するスタイルの観光が定着しており、滞在時間が短い。

これらの状況を踏まえて、本間美術館の課題を次の通り整理する。

課題1：旅行者の興味を喚起するコンテンツの不足

少子高齢化や生活様式等社会情勢の変化により、歴史的資料や美術品の寄贈が増えている。こうした品々の整理が追い付かず、歴史的、文化的価値の高いものでも、十分に紹介しきれていない。また、定期的な展示物の入れ替えの際に、キャプションや展示装飾もあわせて入れ替えを行うが、表示板が小さく読みづらかったり、照度が足りず、本来の美しさを十分に鑑賞いただく環境を提供できなかつたりしている。このため、展示品への理解を深めるための、スマートフォンやタブレット端末等の情報機器などによる、映像コンテンツやAR（拡張現実）を活用した展示解説がないことも、来訪者の知的好奇心に応えられていない。

インスタ映えなどフォトジェニックな観光スポットやレトロを求める観光客に対して、魅力のある資源を持ちながらも、情報発信ツールを十分に活かしてきれていない点が課題である。

課題2：訪日外国人に対応した魅力付けが不十分

訪日外国人旅行者（台湾、欧州、タイなど）が増加傾向にある中、外国人に好まれるコンテンツとして、清遠閣や鶴舞園が美術館敷地内にある。その来館者の中には、清遠閣、鶴舞園観覧目的で来訪し、本間美術館本館には入館しない方も多い。本間美術館本館の展示品の解説は多言語に対応しておらず、紹介の手法や、企画展示と連動した体験型ワークショップの実施など、展示コンテンツの充実、ユニークベニューとしての活用が課題である。

課題3：市内観光拠点と連携した誘客

本間美術館は、JR酒田駅から徒歩5分程度という酒田の観光のゲートウェイとなる場所にあり、個人旅行者にも訴求しやすい好立地にあるが、観光バス等の団体旅行者に対するアプローチが十分でなく、観光バスの来訪者は、団体旅行者が多く訪れる山居倉庫の年間約81万人に対して3万人と少ない。JR酒田駅や山居倉庫からの誘客をはじめ、庄内地域の美術館等との連携や日本遺産を活用した周遊などツアーの造成にもつながるよう改善の必要がある。

課題4：快適な鑑賞環境整備の遅れ

新型コロナウイルス感染症対策として、定期的に換気を行う必要があるが、空調設備がないことから、窓を開ける必要があるが、網戸が付いていないため、来館されるすべての方及び展示物に対する虫害が懸念される。バリアフリー化も十分でなく、車椅子利用者や高齢者にとって、トイレ利用や館内への導線で使い勝手が良くない。特にWi-Fi環境の提供は外国人観光客のニーズも高く、口コミによる情報発信にもつながるが、整備には至っていない。

3-3. 文化観光拠点施設としての機能強化に向けて取組を強化すべき事項及び基本的な方向性

取組強化事項1及び基本的な方向性：旅行者の興味を喚起するコンテンツの充実（課題1関連）

所蔵資料の整理を行い、歴史的、文化的価値の高いものから順次デジタルアーカイブ化を進めるため、初年度はデータベースの構築を行う。システム構築後は、デジタルアーカイブ化が完了したものから、ホームページやSNS等による随時情報発信していく。

二次元コードやARなどIT技術を活用した展示を制作する事業を行う。酒田市内の文化施設でAR展示を行っている施設はまだない。広いスペースを確保できなくても提供できる体験型コンテンツによって、これまでとは違った手法による分かりやすい展示解説・紹介を目指す。

更に新たな試みとして常設展示と別にナイトミュージアムと称したイベントを定期的で開催し、建造物、展示物、庭園と光（レトロ調）を組み合わせ、新たな層の集客と、宿泊を伴う旅行の促進を見込む。こうした取り組み（本間美術館が所蔵する文化財の価値の発信）によって本間美術館のブランド力向上が図

られ、本間美術館への来訪が第一の目的となるようなきっかけを創出することで、入館者数の増加につなげていく。本間美術館のブランド力向上は、その歴史的背景にある「本間家」への興味・関心につながり、さらに北前船文化を基にした湊町酒田の形成に大きな影響を与え、後世に多く遺す他の本間家ゆかりの文化資源への興味につなげていく。

(別紙参考資料 P2 参照)

取組強化事項 2 及び基本的な方向性：訪日旅行者に対応した魅力付け（課題 2 関連）

訪日外国人旅行者の増加傾向に鑑み、発信情報の多言語化も、観光庁「魅力的な多言語解説作成指針」に沿って積極的に進めていく。更に「清遠閣」・「鶴舞園」を活用し、来訪者が日本文化を直接体験できるイベントやワークショップを開催することで本間美術館でしか味わえない体験を提供していく。

取組強化事項 3 及び基本的な方向性：市内の観光拠点と連携した誘客促進（課題 3 関連）

JR 酒田駅前再開発ビル「ミライニ」に移転する酒田駅前観光案内所（令和 4 年度には観光案内所前にバスベイが新設され、路線バスや高速バスの発着点が整備される。）や山居倉庫の観光案内所での PR、相馬樓、山王くらぶ等の酒田の人気施設と連携した利便促進を図りつつ、酒田の観光のゲートウェイ機能を発揮するため、本間家と縁のある本間家旧本邸、光丘神社、旧光丘文庫、浄福寺の唐門や、酒田市美術館や土門拳記念館も含め、他の文化施設、観光施設への回遊の入口となることで、本間美術館の底上げが地域全体の魅力アップにつながるよう事業を展開していく。

(別紙参考資料 P4 参照)

取組強化事項 4 及び基本的な方向性：バリアフリー化及び環境の整備（課題 4 関連）

車椅子を使う障がい者や高齢者、英語圏以外の外国人観光客に対するサービスという点で、本間美術館の体制は脆弱であり、文化拠点ではあっても、観光拠点とまでは言えない状況にあった。また、新型コロナウイルス感染症対策も含め、こうした方々にも十分配慮、対応した施設として、ソフト、ハード両面の充実を図るため、必要な事業を行う。

3-4. 地域における文化観光の推進への貢献

本間美術館は、JR 酒田駅から徒歩 5 分圏内にあり、酒田市の交通の要衝に地理的に近い文化観光施設である。酒田の観光のゲートウェイ機能を発揮するため、当館のほか、酒田繁栄の礎となった本間家と縁のある本間家旧本邸、光丘神社、旧光丘文庫、浄福寺の唐門や、酒田市美術館や土門拳記念館も含め、他の文化施設、観光施設への回遊の入口となることで、本間美術館の底上げが地域全体の文化観光の魅力アップにつながるよう事業を展開していく。このように、本間美術館をゲートウェイとして、市内を回遊していただくような事業を展開することで、本間美術館への来訪者が増加するとともに、他の文化観光施設への波及効果を生むことが期待できる。

また、酒田市内の文化施設で、AR など ICT 技術を活用した展示を行っている施設はまだないため、広いスペースを確保できなくても提供できる体験型コンテンツを制作し、これまでとは違った手法による分かりやすい展示解説・紹介を目指す。こうした取り組みは近隣の文化施設から見て、実証実験的な取り組みとなることから、本事業で成果を得ることは、地域の文化振興のリーディングケースを担う意義も持つことになる。また、清遠閣、鶴舞園を活用したユニークベニューへの取組も計画しており、このような取り組みは近隣の文化施設から見れば、先進的な取り組みとなることから、本計画で成果を得ることは、地域の文化振興に大きく寄与することになる。

3-5. 文化の振興を起点とした、観光の振興、地域の活性化の好循環の創出

・酒田市では、酒田市内に点在する本間家ゆかりの文化資産である、本間家旧本邸、旧光丘文庫、浄福寺唐門、光丘神社、下日枝神社、酒田を代表する観光スポットの山居倉庫、併設されている酒田観光物産館「夢の倶楽」、本市中心部の商店街、酒田港近くに設置されたさかた海鮮市場、酒田みなと市場などの観光スポットを、徒歩や自転車で回遊するルートを整備中である。JR酒田駅前から徒歩5分圏内にある本間美術館はゲートウェイとしても位置付けられ、本間美術館を起点とした観光ルートには、市内各施設、店舗への経済波及効果が期待される。

(別紙参考資料 P5 参照)

・また、本間美術館は、これまで夜間は閉館していたが、施設内の鶴舞園や清遠閣をライトアップすることにより、夜間の集客にも取り組む。市内では、既に山居倉庫が毎日ライトアップを行っているほか、期間限定ではあるものの、玉簾の滝でもライトアップを行い、多くの観光客の呼び込みに成功している。しかしながら、それぞれの距離が遠く、単発的で連動性がないため、観光客を分散させてしまうこととなっており、十分なポテンシャルを発揮できていない現状にある。ナイトミュージアム事業は、本間美術館内をライトアップすることで、山居倉庫など他のライトアップ施設と連携して周遊観光できるようにし、飲食店や、宿泊施設へと流れていくことを狙いとする事業である。

・本計画の実施により、本間家ゆかりの文化資産と日本遺産北前船寄港地・船主集落の文化エリアへ日本人、外国人問わず観光客が回遊することで、近隣店舗の観光客に対する意識の変化が見込まれる。また、夜間の事業の仕掛けにより、遠方からの誘客と滞在時間の伸長による宿泊につながるが見込まれる。こうした観光事業者への経済効果、市民への本間家ゆかりの文化資産の価値を再認識していただくシビックプライドの醸成効果により、本間美術館が地域資源として重要であることが認識され、本間美術館の会員（賛助会員等）の増加、寄付金の収入増につながることも期待される。これらの動きによって、本間美術館の財政運営が好転すれば、里帰り展示実現のための空調設備改修や、美術品収蔵庫の建設などへの投資が可能となる。

4. 目標

目標①：来訪者の満足度（日本人）（課題3・4関連、取組強化事項3・4関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

来館者の顧客満足度を把握するため、来館者にアンケートへの協力を呼びかける。アンケート回答方式は、二次元コードを来館者がスマートフォンやタブレット端末で読み込みを行い、Web上（やまがたe申請の活用）でのアンケート調査とする。「大変満足、満足、やや満足」の割合を把握する。

年度	実績		目標				
	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年
目標値（単位：％）	-	-	80	81	82	83	84
事業3-③： 庄内ミュージアム連携 事業			連携事業の継続及 び新規連携事業の 検討	連携事業の継続及 び新規連携事業の 検討	連携事業の継続及 び新規連携事業の 検討	連携事業の継続及 び新規連携事業の 検討	連携事業の継続及 び新規連携事業の 検討
事業5-①： 酒田駅観光おもてなし 事業			酒田駅観光案内所 から本間美術館を 含む観光誘客案内	酒田駅観光案内所 から本間美術館を 含む観光誘客案内	酒田駅観光案内所 から本間美術館を 含む観光誘客案内	酒田駅観光案内所 から本間美術館を 含む観光誘客案内	酒田駅観光案内所 から本間美術館を 含む観光誘客案内

目標②：来訪者の満足度（外国人）（課題2・4関連、取組強化事項2・4関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

来館者の顧客満足度を把握するため、来館者にアンケートへの協力を呼びかける。アンケート回答方式は、二次元コードを来館者がスマートフォンやタブレット端末で読み込みを行い、Web上（やまがたe申請の活用）でのアンケート調査とする。アンケートページは予め多言語化したものを作成し、二次元コードも言語別に用意する。「大変満足、満足、やや満足」の割合を把握する。

年度	実績		目標				
	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年
目標値（単位：％）	-	-	80	81	82	83	84
事業2-①： 展示コンテンツ改善事業				キャプション、映像コンテンツの製作等	展示ケース内装工事、映像コンテンツの製作等	展示ケース内装工事、映像コンテンツの製作等	
事業2-②： 外国人観光客対応観光ガイド派遣事業			外国語観光ガイドの派遣及び外国語案内ボランティアガイドの調整	外国語観光ガイドの派遣及び外国語案内ボランティアガイドの調整	外国語観光ガイドの派遣及び外国語案内ボランティアガイドの調整	外国語観光ガイドの派遣及び外国語案内ボランティアガイドの調整	外国語観光ガイドの派遣及び外国語案内ボランティアガイドの調整
事業3-①： 館内案内表示多言語化整備事業				案内表示板の製作			
事業6-①： 誘客促進環境整備事業				館内整備事業の実施・完了			

目標③：来訪者数（日本人）（課題1・3関連、取組強化事項1・3関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴う来訪者数の減を3年後までに元の水準まで回復させ、5年後にはV字回復を目指す。実際に来訪した方を毎日手集計する。

年度	実績		目標				
	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年
目標値（単位：人）	27,917	29,606	3,000	10,000	20,000	30,000	35,000
事業1-②： 北前船寄港地文化交流事業			交流自治体との交渉、調整	交流自治体の決定及び調整	1自治体との交換展示及び協賛イベントの実施 翌年度交流自治体の決定及び調整	1自治体との交換展示及び協賛イベントの実施 翌年度交流自治体の決定及び調整	1自治体との交換展示及び協賛イベントの実施 翌年度交流自治体の決定及び調整
事業5-②： 酒田観光旅行商品造成支援事業			首都圏、東北管内、県内の旅行エージェントへの訪問・PR活動	首都圏、東北管内、県内の旅行エージェントへの訪問・PR活動	首都圏、東北管内、県内の旅行エージェントへの訪問・PR活動	首都圏、東北管内、県内の旅行エージェントへの訪問・PR活動	首都圏、東北管内、県内の旅行エージェントへの訪問・PR活動

目標④：来訪者数（外国人）（課題2関連、取組強化事項2関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

外国クルーズ船の寄港や外国チャーター便の誘致効果により、令和元年度の外国人旅行者の来訪者数は平成29年度の2倍超となった。5年後の目標としては、新型コロナウイルス感染症の影響による伸びの鈍化が想定されるが、10年後には本事業による相乗効果に伴って3千人の外国人旅行者の来訪を目指す。

年度	実績		目標				
	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年
目標値（単位：人）	943	1,577	100	500	1,000	1,500	2,000
事業1-④： 外国人観光客向け体験型プログラム事業			体験型プログラムの検討	体験型プログラムの検討、外国人によるモニタリング調査の実施	体験型プログラムの実施、改善	体験型プログラムの実施、改善	体験型プログラムの実施、改善

目標⑤：酒田市への来訪客の平均滞在時間（課題1関連、取組強化事項1・3関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

酒田市に観光目的で来訪する方の滞在時間を少しでも伸ばせるような取り組みを通して、食事や宿泊など、文化観光をきっかけに経済波及効果につながる事業の実施効果を分析するため、酒田市内47か所の文化施設、観光施設でアンケートを配布し、郵送で回答いただく方式で実施（酒田市観光動向調査）する。回答者には抽選で酒田産土産物品が当たる方式として、回収率を高める。※H28 調査結果 3.47 時間

年度	実績		目標				
	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年
目標値（単位：時間）	-	-	3.00	3.50	4.00	4.25	4.50
事業1-③： ナイトミュージアム事業				整備に向けた調整 連携事業者との調整	ライトアップ及び イベントの実施	ライトアップ及び イベントの実施	ライトアップ及び イベントの実施
事業3-②： 酒田まるごと美術館事業				パンフレットの製 作、無料観光用自転 車設置施設での案 内、ツアーの造成	無料観光用自転車 設置施設での案内、 ツアーの催行	無料観光用自転車 設置施設での案内、 ツアーの催行	無料観光用自転車 設置施設での案内、 ツアーの催行

目標⑥：美術館会員数（課題1関連、取組強化事項1関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

会員に入会手続きをした方の人数を把握する。現会則では有効期限が1年間のため、リピーターは毎年更新しており、リピート率の算定に最適である。

年度	実績		目標				
	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年
目標値	520	542	50	200	400	600	700
事業1-①： 所蔵資料データベース 化事業			デジタルアーカイブ化する所蔵美術品の整理	デジタルアーカイブ化するためのデータベースのシステムの構築	順次、選定資料の写真撮影、解説を付したデジタルアーカイブ化	順次、選定資料の写真撮影、解説を付したデジタルアーカイブ化	デジタルアーカイブ化が完了したことからホームページで公開
事業4-①： 美術館オリジナルグッズ 開発事業				オリジナルグッズ 新商品3点の開発等	オリジナルグッズ の販売強化	オリジナルグッズ の販売強化	オリジナルグッズ の販売強化

5. 目標の達成状況の評価

以下の1) から4) の取り組みを年間スケジュールとしてPDCAサイクルに則った事業サイクルとして毎年実施していく。なお、事業成果の検証、評価、事業の見直しの検討にあたっては、各機関担当者による連絡会を設置し、実施していく。酒田DMO、酒田観光物産協会から酒田市の観光の概況や市内観光事業者等の動き、全国的な観光のトレンドなどについて、情報提供、助言等の支援を行う。また、The Hidden Japan合同会社からは、観光推進事業者の専門的見地から事業成果の検証、事業の見直しの方向性等について助言等の支援を行う。中間年となる令和4年度には外部有識者による外部評価を実施できるよう検討する。

- 1) 連絡会を定期的（5月、8月、11月、2月の最終週）に開催し、各事業の各事業の進捗状況や集計済みKPIを確認し、実施事業の検証を事務局全体で行う。
- 2) 2月中旬に事業評価を連絡会において実施し、事業の成果について、検証・評価を行い、次年度実施に向けて見直しが必要な事業については、見直し案の検討を行う。
- 3) 3月に実施される理事会において、事業の成果及び評価について検証結果を報告し、見直し案があれば合わせて協議する。理事会において、次年度計画を決定する。
- 4) 4月初旬に、見直し点を中心に、次年度計画に基づく実施事業を具体的に事務局で協議し、実行していく。

6. 文化資源保存活用施設

6-1. 主要な文化資源についての解説・紹介の状況

6-1-1. 現状の取組

・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第1条第1項第1号）

本間美術館では、テーマに沿った展覧会の企画、展示を行い、来館者にリピートしていただけるよう工夫している。これまで行ってきた企画としては、「江戸期の絵画」「本間家所蔵茶道具」「大正・昭和の洋画」「古文書」などのテーマで開催してきた。他にも、春の雛人形展や、毎年初夏には茶道の特別展を行っており、茶道七流派を毎年交代して行っている。特別展は年8～10回開催しており、特別展ごとに開催するギャラリートークでは、60人の定員が満員になることも多い。参加者は、会員でリピーターが多く、年齢層も60代から70代の方が中心となっている。ギャラリートークでは、テーマに沿った展示品の魅力や歴史的背景などについて解説を行い、理解を深めていただくとともに、通常展示のときのパネルを読んだだけでは伝えきれない内容に触れていただくことで、「分かりやすい」「更に興味が深まった」など、参加者からは多くの好評の声をいただいております、リピーターの獲得につながっている。ギャラリートークは、会員数の維持、増加のためにも欠かせないイベントとなっている。

また、年に1～2回のワークショップや年1回程度の講演会を開催し、幅広い年代を対象に芸術文化に触れる機会を提供している。近年実施したワークショップの内容としては、古布を使った人形づくり、手作り団扇教室、型染め手作りハガキ教室などで、小学生を連れた親子から高齢者まで、幅広い世代の参加がある。また、子ども向けプログラムとして、美術品鑑賞プログラム（普段、展示する機会の少ない美術品を特別に出し、美術品の観方を解説する。）や庭園マップ作りの開催では、毎回小学生10人程度の参加がある。

近年、開催してきた講演会事業としては、ねじめ正一氏や吉増剛造氏による朗読会や、展示した美術品に関係した落語をしていただくミニ寄席などがある。絵本をテーマにした特別展では、作品にあわせて読み聞かせ朗読会を開催したところ、多くの親子連れが来館し、県外からも参加する方がいるなど毎回盛況である。

（別紙参考資料P14参照）

近年の新しい取り組みでは、リピーターとなる会員増加につながる試みとして、庄内地方にある他の美術館に会員と一緒にいくツアーを行い、普段本間美術館では観ることのできない文化財等に関するギャラリートークを他館の現地で行い、大変好評を得ている。この事業は、庄内ミュージアム連携事業（事業番号3-③）の一環として実施したものであり、この事業が双方向になれば、より幅広い来館者層の発掘につながるWin-Winの関係構築が可能となるため、今後も継続していくこととしている。

更に、新たな来館者層の掘り起こしのための取り組みとして、生け花の企画展示を同時開催し、絵画や工芸品などと一緒に異分野の芸術を鑑賞する機会の創出にも取り組んでいる。同様の取り組み例としては、ツアー事業者の協力で、京都から裏千家淡交会のツアーがあった際は、清遠閣を貸し切りで茶会を開いた。このツアーイベントでは、本間美術館が所蔵する美術品の茶碗や茶器を実際に使っていただけるよう手配したところ、この点がツアーの大きな魅力となり、大変好評を得た。

・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号）

4年前にホームページをリニューアルし、多言語対応化を図った。また、フェイスブックなどSNSを活用した情報発信、YouTubeによる配信など、多様なデジタルメディアを織り交ぜて、多くの階層に本間美術館の魅力を伝えられるよう工夫している。（URL <http://www.homma-museum.or.jp/>）SNSでは、企画展、親子体験教室やギャラリートークなどのイベント情報を発信している。YouTubeでは、館長が館内を直接案内する様子を来館者目線で制作して公開している。その一方で、館内の案内表示はキ

ャプションによるアナログ表示のみとなっており、情報通信技術を活用した多様なニーズに応えるサービス展開ができていない状況が課題となっている。

(別紙参考資料 P15・P16 参照)

酒田観光物産協会では、酒田の観光スポットをまとめたホームページ「酒田さんぽ」(URL <https://sakata-kankou.com/>) を作成しているほか、酒田DMOでは、外国語版酒田観光ホームページを別途作成 (URL <https://sakatacity.com/>) し、国内外に酒田の魅力を発信している。

(別紙参考資料 P17 参照)

・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介 (施行規則第 1 条第 1 項第 3 号)

外国人の団体観光客来館の際は、外国語で観光ガイドを行う方に、予め展示内容について学芸員より説明を行って対応している。来館時には、外国語観光ガイドに説明員も同行し、想定外の質問にも対応できるよう配慮している。また、展示物キャプション作成の際は、外国語観光ガイドの協力も得て、英語訳を付けるようにしている。館内のトイレの場所や禁煙、撮影禁止等の注意喚起案内については英語表記も行っているほか、本間美術館パンフレットについては、英語版を制作し、配布している。

(別紙参考資料 P18・P19 参照)

6-1-2. 本計画における取組

・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介 (施行規則第 1 条第 1 項第 1 号)

本間美術館が所蔵する文化財のデジタルアーカイブ化を進め、約 3 千点の文化財の整理を行うとともに、デジタルアーカイブ化の終わったものから順次ホームページで公表していく。また、展示公開する際には、展示物のキャプションや展示ケース内装等が収蔵品の構成の変化に伴い、雰囲気と合致しない点が出てきており、美術品の魅力向上のためにも、展示コンテンツに合致した環境整備を行う。新しいキャプションの製作、展示ケース内装工事を行う。これらの事業に要する環境整備事業として、車椅子の方や高齢者等に利用しやすいようバリアフリー化 (スロープの設置、トイレの洋式化) を図る。

・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介 (施行規則第 1 条第 1 項第 2 号)

多言語化への対応をキャプションのみで全て対応することはスペース的にも困難であることから、キャプションの電子化を進める。具体的には、キャプションに二次元コードを掲出し、スマホ、タブレット端末等で読み込むと、当該文化財の説明を見ることができるものを制作する。来館者が当該情報を取得しやすいよう、Wi-Fi 整備を行う。また、AR 技術を使った現実空間への仮想コンテンツの表示制作も進め、ビジュアル的にインパクトのある展示企画ができるよう検討する。検討にあたっては、市内 AR 事業者と企画段階から連携し、当初から多言語化も念頭に The Hidden Japan 合同会社と共同して、多角的視点で制作していく。

・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介 (施行規則第 1 条第 1 項第 3 号)

前述のキャプションに掲出する二次元コードには、外国語による案内表示もあわせて掲出し、来館者のスマホやタブレット端末で、手で外国語の解説が読めるようにする。外国語表記にあたっては、The Hidden Japan 合同会社の知見を活かし、外国人観光客にも理解しやすい表記に配慮した製作とする。

外国人観光客向けの体験型プログラムの検討にあたっては、これまで本間美術館が日本人向けに開催してきたワークショップ等の実績や、The Hidden Japan 合同会社が携わってきた外国

人観光客向けのサービス提供等の実績などを踏まえ、文化観光推進事業者と連携して事業化を目指していく。

6-2. 施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者との連携

6-2-1. 現状の取組

・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築

酒田DMOでは、酒田市観光ガイドブック「さかたさんぽ」を作成し、本間美術館をはじめとし、本間家旧本邸、旧光丘文庫、浄福寺唐門、光丘神社、下日枝神社など、北前船交易によって栄えた湊町で日本遺産のストーリーを構成する文化資産として紹介しており、酒田を代表する観光スポットとして国内外に発信している。

酒田港への外国クルーズ船がインバウンド観光客の多くを占めている。外国クルーズ船の誘致活動は、山形県と連携したポートセールス協議会が中心となって活動している。

また、酒田市観光案内所は外国人観光案内所としてJNTOの認定を受けており（酒田駅前交流拠点施設「ミライニ」開館後はそちらに移転し、「酒田駅前観光案内所」となる）、クルーズ船以外の外国人の誘客については、広域（庄内、最上庄内、山形県）で連携して実施していくとともに、情報発信やプロモーションでは東北観光推進機構とも引き続き連携していく。

酒田DMOでは、外国クルーズ船や海外チャーター便の来訪時、海外友好都市視察時など、大勢の外国人が酒田に来訪される際には、酒田市が連携協定を締結している市内高校や東北公益文科大学の協力を受けて、生徒・学生による外国語案内ボランティアを実施している。街歩きをする外国人観光客のために、主要な観光ポイント付近で、道案内などを英語で行っている。

このほか、本間美術館を含め、観光施設内の案内などある程度の知識が求められる部分については、通訳者や外国後ガイドを配し、各文化施設、観光施設等の案内を行い、酒田市内の観光スポットの魅力を外国語で個別に紹介している。通訳者、外国語ガイドには、留学経験者やネイティブの方など、観光産業のみならず、多様な民間人材を活用しており、現在4か国語（英語、中国語、韓国語、ロシア語）に対応している。

また、観光施設内の案内にあたっては、専門的な解説を要することも多いため、案内施設の説明について、事前に施設職員とすり合わせを行うようにしている。その際、事前に想定していない事項を外国人観光客から照会されてもその場ですぐに対応できるよう、施設職員も必ず現地同行するよう調整している。

年々こうした観光通訳の人材確保が課題となってきていることを受けて、人材育成として地域限定通訳案内士の養成講座を令和元年に始め、現在14名を輩出し、活躍していただいている。

・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析

酒田DMOにおいて、「酒田市中長期観光戦略」に基づき、市内47か所の文化観光施設の入館者数、属性情報等の取りまとめを行う。収集したデータを分析し、観光戦略・計画の策定、民間事業者への支援検討、情報発信・プロモーションの強化、二次交通手段の確保、観光戦略推進のための他の行政機関との連携、顧客マーケティングなどの取り組みにフィードバックしていく。また、分析結果を実施体制メンバーで共有し、事業計画や経営戦略の策定等に役立てていく。

・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立

「酒田市中長期観光戦略」では、酒田のオリジナル・ストーリーとして、酒田独自の地域性が生み出した固有の理念や観光振興の基本的な思想に基づくものであり、市民自らが認識し地域の誇りとして感じる柱となる次の2点を定めている。

〈“交易”：北前船や最上川舟運で栄えた酒田の特性〉

酒田は最上川河口に位置しており、最上川を通じて内陸から紅花や米など豊かな農産物が数多く集積した商都である。さらに、北前船交易の寄港地として、全国各地から集積した豊かな食材は北前船でもたらされた京の文化と融合し、現在でも酒田の食文化として根付いているなど、まさに交易都市として発展を遂げてきた。

〈“公益”：豪商「本間家」等による地域風土としての特性〉

北前船交易で栄えた豪商たちは、“酒田三十六人衆”と呼ばれ、本間家のように、私財を投じて町のために様々な投資を行うなど、公益に資する事業を積極的に行ってきた豪商も存在する。

このように、酒田は“交易”と“公益”で発展してきた地域であることから、酒田市中長期観光戦略のオリジナル・ストーリーの柱として設定し、「KOEKI（交易と公益）のまち・酒田～港町文化とおもてなしのまち・酒田～」とした。

このオリジナル・ストーリーを核として、具体的な観光施策を展開するため、酒田の強みである「歴史・伝統」、「食・食文化」、「自然景観」、「公益と豪商」を設定している。

こうした事業方針は、文化観光の推進に関する理念と相通ずるものがあり、本拠点計画とも齟齬のない内容となっている。この戦略では、この方針に基づくKPIとして、観光入込者数として、平成27年度の年間280万人から令和7年度には100万人増の380万人と設定した。また、既存の観光入込者数の指標だけでなく、観光客の満足度についても向上を図るものとした。

観光戦略の達成状況及び進捗状況を毎年度検証し、酒田市の観光を取り巻く環境変化や社会情勢の変化を踏まえ、随時かつ柔軟に見直し修正を図る。そのため、年度ごとにPDCAサイクルによってチェックしながら施策を見直し、現実に即したプランを検討している。

6-2-2. 本計画における取組

・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築

平成30年4月に認定された日本遺産「北前船寄港地・船主集落」は全国48自治体で構成されており、北前船日本遺産推進協議会を組織し、構成自治体の連携や共同事業を進めている。酒田DMOが「北前船寄港地文化交流事業（事業番号1-②）」で担う役割として、このネットワークを活かし、構成自治体にある美術館同士で、互いに所蔵する文化財、美術品の交換展示、北前船日本遺産構成文化財の比較展示などが実施できるよう調整を図っていく。

また、酒田市では観光施設や物産取扱事業者、市民団体などで構成する酒田市日本遺産推進協議会が日本遺産を活用した観光や物産開発を進めていることから、文化財等の交換企画展を行う際には、関係する団体の方々による物産市を協賛イベントとして併せて開催できるよう、酒田DMOが中心となって進めていく。この協賛イベントにより、文化だけでなく、観光の面でも連携し、地域経済の活性化、交流人口の増加へとつながる取り組みを展開する。

なお、交流自治体先で本間美術館の文化財を展示する期間中は、交流自治体先で「酒田フェア」のような物産市を協賛イベントとして開催できるよう調整し、文化交流をきっかけにして、文化以外の交流も図ることにより、経済波及効果を高める取り組みにする。遠方の美術館の文化財、美術品の企画展示には、県内のみならず、近隣各県からの集客も見込まれることから、広報活動も普段より広域的に実施する。

酒田DMOが「ナイトミュージアム事業（事業番号1-③）」で担う役割は、近年、インスタ映えなどフォトジェニックな観光スポットに注目が集まっており、ライトアップによる集客効果が酒田市内各所でも見られていることから、鶴舞園及び清遠閣のライトアップ展示を支援し、新たな顧客層の開拓を行う。また、他のライトアップ施設や、近隣の飲食店や宿泊施設とイベントタイアップを検討し、幅広い年齢層に関心を持っていただけるような企画の検討もあわせて行う。

酒田DMOでは、「酒田観光旅行商品造成支援事業（事業番号1-⑤）」において、首都圏、東北管内（仙台、盛岡、郡山等）、山形市等に所在する旅行代理店に対し、酒田を含む旅行商品造成の営業を行う。酒田観光の定番として、本間美術館を中核とした本間家ゆかりの文化資産（本間家旧本邸、旧光丘文庫、浄福寺唐門、光丘神社、下日枝神社など）、湊町文化を象徴する観光施設の相馬樓、山王くらぶ、山居倉庫、観光施設として整備したさかた海鮮市場、みなと市場、古くから地元根付いている洋食文化（酒田フレンチ）、自家製麺比率が高く、あっさり魚介スープとワンタンが特徴の「酒田のラーメン」、現在行っている取組「食の都庄内」「酒の酒田の酒まつり」「トタバローネ in 庄内浜（鯛ラーメン）」等の海の幸をはじめとした酒田の豊かな食文化などを周遊する観光コースを提案していく。

また、本事業で事業化を目指す「北前船寄港地文化交流事業（事業番号1-②）」、「ナイトミュージアム事業（事業番号1-③）」、「外国人観光客向け体験型プログラム事業（事業番号1-④）」、「酒田まると美術館事業（事業番号3-②）」（別紙参考資料P7参照）の進捗状況に応じて、ツアー造成に活かしていただけるよう情報提供、ツアー提案をしていく。

・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析

酒田DMOにおいて、「酒田市中長期観光戦略」に基づき、市内47か所の文化観光施設の入込数、属性情報等の取りまとめを行う。酒田市の観光の現状及び今後の見通しについて、これまで行ってきた独自分析、コンサルティング会社による分析のほか、東北公益文科大学と連携して、専門的な見地からの分析も加え、幅広い視点から、より有意な分析を行えるよう実施していく。

・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立

文化観光の推進に関する事業について、これまでは「本間家」に着眼した事業は数多くある観光事業の一つに過ぎない位置づけであったが、駅前再開発ビル「ミライニ」オープンの時期と重なるタイミングで、本間美術館を中核とした文化観光拠点計画事業の策定となることから、地域交通網の再編と文化観光振興の拠点整備が同時期にスタートできるため、酒田市にとって、より話題性の高い、インパクトのある事業とすることができる。この点を最大限に活かし、交通の要衝から文化観光への人の流れができるよう事業、広報を積極的に展開していく。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う影響により、本市観光客数は日本人、外国人ともに令和2年度の実績見込みは令和元年度の10%程度と前年度比9割減が見込まれている。本計画の実行により、3年後の令和5年度には令和元年度と同程度の観光客数まで戻すことを短期的な目標とし、10年後の令和11年度には本市観光客数を日本人、外国人ともに令和元年度の2倍を目指す。

この目標を達成するためには、取り組んだ事業によってもたらされた効果の分析と改善が必要であり、事業の評価を客観的に行うためにも、外部評価や専門的知見を活かす仕組みを構築していく必要がある。「酒田市中長期観光戦略」の計画、実行、評価、見直しにも同じ手法で取り組んでおり、本計画についても「酒田市中長期観光戦略」の一環としてPDCAサイクルの取り組みを行っていく。

6-3. 施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者との連携

6-3-1. 現状の取組

・文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めた賑わいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施

庄内観光コンベンション協会や酒田DMOでは、JR酒田駅で開催されるイベントやリゾート列車「海里」到着歓迎イベント等の際に、試飲食や観光パンフレット配布等のPRを行っており、酒田観光物産協会が運営するJR酒田駅構内の観光案内所には、そうした日は特に多くの観光客が訪れている。JR酒田駅構内の観光案内所にとって本間美術館は、駅を出てすぐの徒歩圏内にあり、手軽に行くことができる文化観光拠点としてPRしやすいため、他の文化観光施設への回遊の足掛かりとして紹介している。

現在、JR酒田駅構内に設置している観光案内所は、令和2年11月28日に酒田駅前再開発ビル「ミライニ」に移転する。これまで行っていた無料観光用自転車の管理もあわせて機能移転する。また、令和4年度には、観光案内所前にバスベイが新設され、市内路線バス、高速バスの結節点となる。こうした状況を活かし、デジタルサイネージの設置や観光パンフレット棚の拡幅等、観光客へのPRを更に強化することとしている。

酒田市内を運行している生活路線バスを、観光客にも活用いただけるよう路線バスを使った観光モデルコースのパンフレット（別紙参考資料P6参照）を交通事業者に作成していただき、酒田市の観光スポット周遊における起点として、本間美術館を紹介していただいたこともある。

6-3-2. 本計画における取組

・文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めた賑わいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施

酒田DMOでは、「酒田駅観光おもてなし事業（事業番号1-④）」において、JR東日本で紹介している「駅からハイキング」10kmコースに本間家ゆかりの文化資産と定番の観光スポットを巡るコースを提案し、新たな鉄道旅客層の開拓を進める。

また、酒田DMO、酒田観光物産協会では、「酒田まるごと美術館事業（事業番号3-②）」では、本間美術館をゲートウェイとして、市内に点在する本間家ゆかりの文化資産を巡る観光モデルコースをコンパクトなパンフレットにまとめ、観光案内所や無料観光用自転車設置施設で案内してもらう。

また、上記2事業の共通事項として、パンフレット等には、単なる経路案内ではなく、距離や消費カロリーなどもあわせて掲載し、運動や健康に興味、関心の高い層にも訴求する内容とする。他に飲食スポット、グルメ情報も掲載する。情報過多とならないよう、詳細な情報は二次元コード表示にして、スマートフォンやタブレット端末で見られるようにして、見やすいパンフレットを意識した構成とする。

The Hidden Japan合同会社では、「ナイトミュージアム事業（事業番号1-③）」において、近年、インスタ映えなどフォトジェニックな観光スポットに注目が集まっており、ライトアップによる集客効果が酒田市内各所でも見られていることから、鶴舞園及び清遠閣をライトアップ展示の機会を捉え、観光事業の経験、経営資源を活かし、近隣の飲食店やキッチンカー出店者、宿泊施設等とのイベントタイアップなど、ツアー造成や若い年齢層に関心を持っていただけるような企画の検討を行う。

また、「酒田まるごと美術館事業（事業番号3-②）」では、道中の飲食スポット、上記以外の観光スポット（相馬楼、山王くらぶ、海向寺、小幡など）もあわせて紹介し、「グルメ」、「フォトジェニック」など、外国人旅行客や国内の若い女性旅行客向けの企画をターゲット別に検討を行う。

7. 文化観光拠点施設機能強化事業

7-1. 事業の内容

7-1-1. 文化資源の魅力の増進に関する事業

(事業番号 1-①)

事業名	所蔵資料データベース化事業
事業内容	本間美術館が所蔵する資料、美術品について、デジタルアーカイブ化するためのデータベースのシステムの構築を初年度に行う。システム構築後は、当該資料等について、写真撮影を行い、解説を付してデジタルアーカイブ化し、ホームページで順次公開していく。3千点以上にも及ぶため、歴史的価値の高い貴重なものなど、優先度が高いものから順に実施していく。
実施主体	本間美術館
実施時期	令和2年度計画認定日から令和6年3月31日まで
継続見込	3か年計画で約3千件の所蔵資料のデータベース化を完了する。計画期間終了後は、自主財源（入館料等）で随時更新していく。
アウトプット 目標	年間データベース化件数（R3：600件、R4：1,200件、R5：1,200件、3か年累計3,000件）
必要資金 調達方法	36百万円（内訳：36百万円（内訳：14.2百万円（入館料） 21.8百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁））））

(事業番号 1-②)

事業名	北前船寄港地文化交流事業
事業内容	平成30年4月に認定された日本遺産「北前船寄港地・船主集落」を構成する47自治体にある文化資源と酒田市の北前船との交流理解が促進できるよう、酒田市と北前船を通じて交流のあった自治体にある博物館や美術館と、互いに所蔵する文化財、美術品の交換展示を行う。それぞれの自治体で展示イベントを実施する際には、双方の観光や名産品のPRを行う協賛イベントを行い、文化交流をきっかけに地域経済への貢献にも寄与する取り組みとする。
実施主体	本間美術館、酒田DMO
実施時期	自治体、関係機関との調整が付き次第実施
継続見込	計画期間終了後も、自治体、関係機関と協議を継続し、酒田DMO予算で計画していく。
アウトプット 目標	相互交流自治体数 R2：－、R3：－、R4：1自治体、R5：1自治体
必要資金 調達方法	6百万円（内訳：6百万円（内訳：3百万円×2か年（酒田DMO予算）））

(事業番号 1-③)

事業名	ナイトミュージアム事業
事業内容	近年、インスタ映えなどフォトジェニックな観光スポットに注目が集まっており、ライトアップによる集客効果が酒田市内各所でも見られていることから、鶴舞園及び清遠閣をライトアップ展示し、新たな顧客層の開拓を行う。また、他のライトアップス

	ポットを組み合わせたツアーや、近隣の飲食店やキッチンカー出展者、宿泊事業者等とイベントタイアップを検討し、幅広い年齢層に関心を持っていただけるような企画の検討もあわせて行う。
実施主体	本間美術館、酒田DMO、The Hidden Japan 合同会社
実施時期	令和3年度以降
継続見込	計画期間終了後は、自主財源（本間美術館：入館料等、酒田DMO予算）のほか、活用可能な補助金制度を検討し、事業を継続していく。
アウトプット 目標	来訪者（日本人）の満足度（単位：%） R1：-、R2：80、R3：81、R4：82、R5：83
必要資金 調達方法	7百万円（内訳：7百万円（内訳：1.7百万円（入館料） 3.3百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁） 1百万円×2か年（酒田DMO予算））

（事業番号1-④）

事業名	外国人観光客向け体験型プログラム事業
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日本式庭園の特長、四季折々の動植物、歴史的背景などの解説を行い、鶴舞園のマップ作りを通して、外国人観光客向けに日本文化への理解を深める体験型ワークショップを行う。 ・平常時は非公開としている清遠閣の茶室に、茶道家を招き、外国人観光客に茶道を体験していただくことで、日本文化への理解を深める体験型プログラムを行う。 ・The Hidden Japan 合同会社の経営資源を活用し、実際に外国人のモニタリングを行い、酒田DMOとThe Hidden Japan 合同会社が連携し、本間美術館内で開催可能な体験型プログラムのメニュー開発を行う。
実施主体	本間美術館、酒田DMO、The Hidden Japan 合同会社
実施時期	令和2年度：体験型プログラムの検討、令和3年度：モニタリング実施、令和4年度以降事業化
継続見込	計画期間終了後は、本間美術館も収益の一部を得られるよう、イベント企画会社が事業化し、継続していく。
アウトプット 目標	本間美術館への年間来訪外国人客数 R1：1,577人、R2：100人、R3：500人、R4：1,500人、R5：2,000人
必要資金 調達方法	6百万円（内訳：6百万円（内訳：2百万円（入館料） 4百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁）））

7-1-2. 情報通信技術を活用した展示、外国語による情報の提供その他の国内外からの観光旅客が文化についての理解を深めることに資する措置に関する事業

（事業番号2-①）

事業名	展示コンテンツ改善事業
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・展示物のキャプションや展示ケース内装等が収蔵品の構成の変化に伴い、雰囲気と合致しない点が出てきており、美術品の魅力低下につながるためにも、展示コンテンツに合致した環境整備を令和3年度からの3か年計画で実施するもの。初年度は、新しいキャプションの製作、Wi-Fi整備等を行う。令和4年度以降は、計画休館期間を設け、展示ケース内装工事に順次取り組む。

	<p>・所蔵美術品のデジタルアーカイブ化（事業番号1-①）と展示物のキャプション製作と同時進行で、多言語化対応したARキャプションの製作に取り組む。展示物のキャプションには、多言語表記で二次元コードへの読み込みを誘導し、スマートフォンやタブレット端末で読み込むと、表記の言語で解説が手元の画面に表示されるようにする。また、立体的な工芸品等は展示ケースの死角となる方向からの画像なども表示できるようにする。</p> <p>・多言語解説の作成にあたり、観光庁「魅力的な多言語の解説作成指針」に沿うものとなるよう、本間美術館の学芸員、酒田DMO、The Hidden Japan合同会社に所属するネイティブの社員による共同制作体制を整備し、外国人にも展示物の魅力やストーリーが伝わるよう、効果的な進め方を検討する。</p>
実施主体	本間美術館、酒田DMO、The Hidden Japan合同会社
実施時期	令和3年交付決定日から令和6年3月31日まで
継続見込	計画期間終了後は、常設展、特別展で使用していき、必要な更新などランニングコストは、本間美術館の入館料等の自主財源で継続していく。
アウトプット 目標	3か年度内の事業完了
必要資金 調達方法	18.9百万円（内訳：18.9百万円（内訳：6.3百万円（入館料） 12.6百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁））））

（事業番号2-②）

事業名	外国人観光客対応観光ガイド派遣事業
事業内容	外国クルーズ船や海外チャーター便の来訪時、海外友好都市視察時など、大勢の外国人が酒田に来訪される際には、酒田市が連携協定を締結している市内高校や東北公益文科大学の協力を受けて、生徒・学生による外国語案内ボランティア隊を結成し、主要な観光ポイント付近で、道案内などを行っている。また、本間美術館を含め、観光施設内の案内などある程度の知識が求められる部分については、通訳者や外国語ガイドを派遣し、各文化施設、観光施設等の案内を行い、酒田市内の観光スポットの魅力外国語で個別に紹介する。観光庁「魅力的な多言語の解説作成指針」に沿って実施する。
実施主体	酒田DMO
実施時期	平成29年度から実施（終期予定なし）
継続見込	酒田市と連携し、酒田DMO予算で継続実施する。
アウトプット 目標	外国語対応観光ボランティアガイド延べ協力人数 R1：967人、R2：一人、R3：1,000人、R4：1,000人、R5：1,000人
必要資金 調達方法	8百万円（内訳：8百万円（内訳：2百万円×4か年（酒田DMO予算）））

7-1-3. 国内外からの観光旅客の移動の利便の増進その他の文化資源保存活用施設の利用に係る文化観光に関する利便の増進に関する事業

(事業番号3-①)

事業名	館内案内表示多言語化整備事業
事業内容	館内の案内表示板は、外国語表記がないため、外国語にも対応した案内表示板を製作するもので、観光庁「魅力的な多言語の解説作成指針」に沿って実施する。 (検討言語：英語、中国語(繁体字、簡体字)、ロシア語、韓国語、タイ語)
実施主体	本間美術館
実施時期	令和3年交付決定日から令和4年3月31日まで
継続見込	計画期間終了後は、常設展、特別展で使用していき、必要な更新などランニングコストは、本間美術館の入館料等の自主財源で継続していく。
アウトプット目標	館内案内表示板の多言語対応数(R2・3：日本語のみ対応、R4以降：日本語を除く4か国語に対応)
必要資金調達方法	5百万円(内訳：5百万円(内訳：1.7百万円(入館料) 3.3百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁)))

(事業番号3-②)

事業名	酒田まるごと美術館事業
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・現状、本間美術館を起点に市内を周遊しようとする場合、路線バスもあるが、運行本数が少なく、観光需要には応えられていない。そのため、観光目的で市内を周遊する交通手段としては、観光タクシーが一部利用される他は、無料観光用自転車の利用が多い。 ・現在の酒田観光パンフレット「さかたさんぽ」では、市内観光を自転車で回遊するモデルコースを掲載しているが、冊子状のパンフレットであり、自転車利用者には使いづらいものとなっている。 ・本事業では、本間美術館をゲートウェイとして、市内に点在する本間家ゆかりの文化資産を巡る観光モデルコースをパンフレットにまとめ、無料観光用自転車設置施設で案内する。具体的には、自転車利用者の特化したパンフレットを製作し、また掲載内容も、道中の飲食スポット、上記以外の観光スポット(相馬樓、山王くらぶ、海向寺、小幡など)も自転車の行動範囲にあわせて絞り込んだ内容とし、観光客の利便性を高めるとともに、市内周遊による経済波及効果が得られるよう取り組む。また、事業の実施にあたっては、関係者と協議の上、検討・実施する。 ・街中をテーマに沿って観光ガイドが歩いて案内する「ぶら探酒田」事業は、毎回定員を上回る応募があったが、惜しまれつつ終了した。本事業では、健康づくりと観光の両立に高い関心を示す元気な中高年層の観光客をターゲットに、酒田の街を造った「本間家の歴史を歩いて巡る酒田まるごと美術館」をテーマとした本間美術館を含む本間家ゆかりの文化資産を歩いて回遊するツアー造成を検討する。
実施主体	酒田DMO、酒田観光物産協会、The Hidden Japan合同会社
実施時期	令和3年度に検討、実施
継続見込	計画期間終了後、酒田DMO予算で継続実施する。

アウトプット 目標	来訪者（日本人）の満足度（単位：％） R1：－、R2：80、R3：81、R4：82、R5：83
必要資金 調達方法	4百万円（内訳：4百万円（内訳：4百万円（酒田DMO予算）））

（事業番号3－③）

事業名	庄内ミュージアム連携事業
事業内容	平成30年度より、庄内地域（2市3町）に点在する文化施設（13施設）を、庄内全体が「ひとつのミュージアム」と見立てて、1本のPR動画にまとめたものや、相互リンクを張った共同発信（フェイスブック、ユーチューブ）、モニターツアーの企画、実施など、連携事業を展開している。 【先行実施例：酒田市美術館・土門拳記念館・本間美術館3館共通券1,720円】 （別紙参考資料P2～P4参照）
実施主体	庄内ミュージアム連携会議（本間美術館を含む庄内地域の文化施設13施設の協議組織）
実施時期	平成30年度から実施（終期予定なし）
継続見込	庄内ミュージアム連携会議事業予算により、フェイスブックでの発信、共通パンフレット、PR用クリアケースの制作を行い、それらのコンテンツを活かして、各施設で来観客に他施設のPRを行う。共通券事業も継続していく。
アウトプット 目標	庄内ミュージアムフェイスブックページの「いいね」評価数 R1：280、R2：380、R3：480、R4：580、R5：680
必要資金 調達方法	1百万円（内訳：1百万円（内訳：1百万円（庄内ミュージアム連携会議予算）））

7-1-4. 文化資源に関する工芸品、食品その他の物品の販売又は提供に関する事業

（事業番号4－①）

事業名	美術館オリジナルグッズ開発事業
事業内容	酒田市内の総合広告事業者と連携し、美術館収蔵品やマスコットキャラクターを活かしたオリジナルグッズを開発、販売し、収益の柱の一つとなるよう取り組む。新商品開発後は、在庫管理や売れ筋商品の分析を専門家のアドバイスも受けながら行うとともに、収益の柱の一つとなるよう、販売価格やデザイン、新商品開発、宣伝など、常にPDCAのサイクルの視点で改善していく。
実施主体	本間美術館
実施時期	令和3年交付決定日から令和4年3月31日まで
継続見込	事業終了後は、入館料、グッズ売上代等を財源として、仕入れ、販売、新商品開発、宣伝などを継続していく。
アウトプット 目標	オリジナルグッズ新商品数3点
必要資金 調達方法	3百万円（内訳：3百万円（内訳：2.7百万円（入館料）0.3百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁））））

7-1-5. 国内外における文化資源保存活用施設の宣伝に関する事業

(事業番号5-①)

事業名	酒田駅観光おもてなし事業
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ JR酒田駅で開催されるイベントやリゾート列車「海里」到着歓迎イベント等の際に、試飲食や観光パンフレット配布等のPRを行う。特に、駅を出て徒歩圏内の本間美術館を、手軽に行くことができる文化観光拠点としてPRし、他の文化観光施設への回遊の足掛かりとする。 ・ JR東日本で紹介している「駅からハイキング」10km コースに、本間美術館をはじめとする本間家ゆかりの文化資産と定番の観光スポットを巡るコースを提案し、新たな鉄道旅客層の開拓を進める。 ・ JR東日本で実施する新潟・庄内アフターDC (R2.10~R2.12) や東北DC (R3.4~R3.9) の大型観光キャンペーンに協力、連携し、出迎えイベントやお見送りイベントなど、JR酒田駅を起点とする観光客に本間美術館を含む酒田市内観光のPRを展開していく。
実施主体	庄内観光コンベンション協会、酒田DMO、酒田観光物産協会
実施時期	平成29年度から実施(終期予定なし)
継続見込	計画期間終了後、酒田DMO予算で継続実施する。
アウトプット 目標	酒田駅観光案内所年間外国人利用者数 R1: 707人、R2: 50人、R3: 250人、R4: 500人、R5: 750人
必要資金 調達方法	4百万円 (内訳: 4百万円 (内訳: 4百万円 (酒田DMO予算)))

(事業番号5-②)

事業名	酒田観光旅行商品造成支援事業
事業内容	首都圏、東北管内(仙台、盛岡、郡山等)、山形市等に所在する旅行代理店に対し、本間美術館を含む旅行商品造成の営業を行う。酒田観光の定番として、本間美術館を中核とした本間家ゆかりの文化資産、湊町文化を象徴する観光施設の相馬樓、山王くらぶ、山居倉庫、観光施設として整備したさかた海鮮市場、みなと市場などを周遊する観光コースを提案していく。
実施主体	酒田DMO
実施時期	令和2年度から実施(終期予定なし)
継続見込	計画期間終了後も、酒田DMO予算で継続実施する。
アウトプット 目標	訪問する旅行代理店数 R1: 46社、R2: 50社、R3: 50社、R4: 50社、R5: 50社
必要資金 調達方法	8百万円 (内訳: 8百万円 (内訳: 2百万円×4か年 (酒田DMO予算)))

7-1-6. 7-1-1～7-1-5 の事業に必要な施設又は設備の整備に関する事業

(事業番号6-①)

事業名	誘客促進環境整備事業
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・訪日外国人旅行者や国内観光客に向けたサービスとして、キャッシュレス決済システムを導入する。(事業番号1-②③④、2-①②、3-②関連) ・車椅子利用者用のスロープ及び多目的トイレの整備、身障者用駐車スペースの設置を行い、バリアフリー化を図ることで、障がい者や高齢者が観覧しやすい環境整備を行う。(事業番号1-②③④、2-②、3-②関連) ・新型コロナウイルス感染症対策として換気を行うため、網戸の取り付けを行う。(事業番号1-②、2-②、3-②関連) (別紙参考資料P20・P21参照)
実施主体	本間美術館
実施時期	令和3年交付決定日から令和6年3月31日まで
継続見込	計画期間終了後は、本間美術館の入館料等の自主財源のほか、活用可能な補助金制度を随時検討しつつ、必要な整備を行っていく。
アウトプット目標	年度内の整備事業完了
必要資金調達方法	22.1百万円 (内訳: 22.1百万円 (内訳: 7.4百万円(入館料) 14.7百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁)))

7-2. 特別の措置に関する事項

7-2-1. 必要とする特例措置の内容

事業番号・事業名	
必要とする特例の根拠	文化観光推進法第 条 (法の特例)
特例措置を受けようとする主体	<div style="border: 2px solid black; padding: 20px; width: fit-content; margin: auto;"> 活用予定なし </div>
特例措置を受けようとする事業内容	
当該事業実施による文化観光推進に対する効果	

7-3. 必要な資金の額及び調達方法

	総事業費	事業番号	所要資金額	内訳
令和2年度	0百万円			
令和3年度	61.2百万円	事業番号1-①	24百万円	9百万円(入館料) 15百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))
		事業番号1-④	2百万円	0.7百万円(入館料) 1.3百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))
		事業番号2-①	5.1百万円	1.7百万円(入館料) 3.4百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))
		事業番号3-①	5百万円	1.7百万円(入館料) 3.3百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))
		事業番号4-①	3百万円	2.7百万円(入館料) 0.3百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))
		事業番号6-①	22.1百万円	7.4百万円(入館料) 14.7百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))
令和4年度	19.9百万円	事業番号1-①	6百万円	2.6百万円(入館料) 3.4百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))
		事業番号1-③	5百万円	1.7百万円(入館料) 3.3百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))
		事業番号1-④	2百万円	0.7百万円(入館料) 1.3百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))
		事業番号2-①	6.9百万円	2.3百万円(入館料) 4.6百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))
令和5年度	14.9百万円	事業番号1-①	6百万円	2.6百万円(入館料) 3.4百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))
		事業番号1-④	2百万円	0.7百万円(入館料) 1.3百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))
		事業番号2-①	6.9百万円	2.3百万円(入館料) 4.6百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))
合計	96百万円			

※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

8. 計画期間

計画期間：4年（令和2年度から令和5年度まで）

令和2年度：所蔵資料データベース化事業、北前船寄港地文化交流事業、外国人観光客向け体験型プログラム事業、外国人観光客対応観光ガイド派遣事業、庄内ミュージアム連携事業、酒田駅観光おもてなし事業、酒田観光旅行商品造成支援事業、文化観光施設環境整備事業

令和3年度：所蔵資料データベース化事業、北前船寄港地文化交流事業、ナイトミュージアム事業、外国人観光客向け体験型プログラム事業、展示コンテンツ改善事業、外国人観光客対応観光ガイド派遣事業、館内案内表示多言語化整備事業、酒田まるごと美術館事業、美術館オリジナルグッズ開発事業、庄内ミュージアム連携事業、酒田駅観光おもてなし事業、酒田観光旅行商品造成支援事業、誘客促進環境整備事業、文化観光施設環境整備事業

令和4年度：所蔵資料データベース化事業、北前船寄港地文化交流事業、ナイトミュージアム事業、外国人観光客向け体験型プログラム事業、展示コンテンツ改善事業、外国人観光客対応観光ガイド派遣事業、酒田まるごと美術館事業、庄内ミュージアム連携事業、酒田駅観光おもてなし事業、酒田観光旅行商品造成支援事業、文化観光施設環境整備事業

令和5年度：所蔵資料データベース化事業、北前船寄港地文化交流事業、ナイトミュージアム事業、外国人観光客向け体験型プログラム事業、展示コンテンツ改善事業、外国人観光客対応観光ガイド派遣事業、酒田まるごと美術館事業、庄内ミュージアム連携事業、酒田駅観光おもてなし事業、酒田観光旅行商品造成支援事業、文化観光施設環境整備事業